

ぬまづ健康マイレージの取組状況と評価に対する認識は

問 健康づくりを応援する市民参加型の取組である「ぬまづ健康マイレージ」について、①取組状況と評価に対する認識は。②今後デジタル化を進める考えは。

答 市民福祉部長 ①所定のポイントに達した人に「ぶじのくに健康いきいきカード」を交付しており、過去三年間の交付者数は、毎年八百人前後で推移している。参加者からは、健康を意識するきっかけになったなどの意見が寄せられており、主体的な健康づくりに取り組む動機づけの一助になっていると考えている。

方で、カードの交付数は伸び悩んでおり、参加者を増やす工夫が必要であると認識している。②スマホアプリやキャッシュレス決済との連携などによるデジタル化を推進することで、参加実績の低い若年層の取組拡大が期待できるものの、導入や運用に係る経費などを含め、費用対効果を慎重に検討する必要がある。今後は他市町の事例を調査研究し、本市に適した手法を検討するとともに、まずは利便性向上の一つとして、ポイントシートの電子メールでの提出を可能とする取組を進めていく。

片岡 章一



若者の結婚を地域で応援する機運を醸成するための取組は

問 若者の結婚を地域で応援する機運や結婚に対するポジティブなイメージを醸成するための取組は。

答 市長 若者が結婚に対してポジティブなイメージを持つために、地域で結婚を応援する機運を醸成することは重要であると認識している。そのため、市内の賛同企業と連携した婚活イベントを開催するとともに、国・県の施策の動向や他自治体における先進事例を参考に調査研究を進めるなど、若者が結婚に対して前向きな見通しを持てるよう、多様な施策を推進していく。

問 五十歳以上を対象とした带状疱疹ワクチン任意予防接種費用の一部助成を継続する考えは。

答 市民福祉部長 本市では、带状疱疹の罹患率が増加する五十歳以上を対象に、带状疱疹ワクチン予防接種費用の助成を行っている。五十歳から六十四歳までは、就労や家庭を支える中核的な世代であり、带状疱疹やその合併症が日常生活に大きな影響を及ぼすおそれがある。本助成は早期接種の一助となることから、他市町の状況等を参考に助成の継続について検討していく。

小泉 宣子



熱中症から生活困窮者等の命を守るための支援策は

問 熱中症から命を守るための支援策について、①生活困窮者に対するエアコンの設置・修理費及び電気代の支援の取組は。②エアコン未設置の生活保護世帯の実態把握と設置に向けた取組は。

答 福祉事務所長 ①市独自のエアコン設置費用等の支援は行っていないが、生活困窮者等から購入や修理の相談を受けた際には、社会福祉協議会が行う生活福祉資金貸付制度の利用を案内している。電気代については、国の電気・ガス料金負担軽減支援事業補助金を交付しており、今

後の社会情勢の変化を踏まえつつ、必要な支援の在り方について検討していく。②エアコン未設置の生活保護世帯数を詳細に把握していないが、日頃のケースワークにおいて、各世帯の状況や購入意向を確認し、購入に向けた家計管理を指導するなどの支援を行っている。また、特別な事情がある場合は、国の通知に基づき、購入費用を支給している。本件については、全国市長会において、全ての生活保護世帯を支給対象とするなど、支援の拡充を国に提言しており、今後の動向を注視していく。

高橋 秀子



本市における道路等の維持管理状況は

問 本市における道路等の維持管理の状況は。

答 建設部長 本市では、高度経済成長期に整備された道路や橋梁等が経年化していることから、幹線道路や橋梁等を対象に予防保全に取り組んでいる。道路舗装については、舗装維持管理計画に基づき、路面の凹凸やひび割れの程度、交通量、周辺環境等を総合的に勘案しながら、緊急性の高い路線を優先的に選定し、効率的な補修の実施と費用の平準化を図り、大規模な更新を未然に防いでいる。また、橋梁については、橋

梁長寿命化修繕計画に基づき、定期的な点検・診断を行い、施設が機能を喪失する前に補修を行うことで長寿命化を図っている。その他一般道路については、日々のパトロールや自治会からの要望、LINE通報システム等からの情報を基に、早急に補修・清掃を実施するなど、安心・安全な道路環境の維持に努めている。近年は補修件数が増加し、建設コストも増加傾向にある中、予防保全による効率的な補修の実施と費用の平準化を図るなど計画的な維持管理に取り組んでいる。

川口 慶

